

間脳下垂体機能障害に関する研究

研究代表者

有馬寛 国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学・大学院医学系研究科・教授

研究要旨

ACTH 分泌異常症、GH 分泌異常症(成人)、GH 分泌異常症(小児)、TSH 分泌異常症、PRL 分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、バソプレシン分泌異常症、偶発的下垂体腫瘍、自己免疫性視床下部下垂体炎、および腎性尿崩症先天性を担当するチームリーダーおよび分担者がそれぞれの疾患のCQを数個ずつ定め、研究者全員の投票により原則として各疾患3つのCQを決定した。また、難病プラットフォームの雛型を用いて、各疾患のレジストリを作成し、京都大学医の倫理委員会の承認を得た。

A. 研究目的

間脳下垂体疾患の診療に資する診断ガイドラインおよび疾患レジストリを策定する。

員会の承認を得た。

B. 研究方法

ACTH分泌異常症、GH分泌異常症(成人)、GH分泌異常症(小児)、TSH分泌異常症、PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、バソプレシン分泌異常症、偶発的下垂体腫瘍、自己免疫性視床下部下垂体炎、および腎性尿崩症先天性を担当するチームリーダーおよび分担者がそれぞれの疾患のCQを検討するとともに、レジストリの作成を行った。CQに関しては研究者全員で投票を行い、各疾患のCQを定めた。

(倫理面への配慮)

特記すべきことなし。

D. 考察

間脳下垂体疾患の診療ガイドラインの改訂に資するCQを定めることができた。また、新たなエビデンス創出に繋がる疾患レジストリを構築することができた。

E. 結論

各種間脳下垂体疾患および先天性腎性尿崩症のCQを定めるとともに、疾患レジストリを構築した。

F. 健康危険情報

該当なし

C. 研究結果

原則として、疾患毎に3個のCQを定めた。また、各疾患のレジストリを策定し、京都大学医の倫理委

G. 研究発表

1. 論文発表

各分担者報告参照

2. 学会発表

各分担者報告参照

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし